

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ	
-----------	--

② 施設・事業所情報

名称：グローバルキッズ 大船園	種別：認可保育所	
代表者氏名：菅野 里美	定員（利用人数）：48名（利用人数48名）	
所在地： 〒247-0051 鎌倉市岩瀬1-2-1ザ・パークハウスオイコス鎌倉大船		
TEL：0467-38- 6601	ホームページ： https://www.gkids.co.jp/facilities/nursery_167.html	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2020年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 グローバルキッズ		
職員数	常勤職員：11名 非常勤職員：6名	
専門職 員	（専門職の名称） 名	
	保育士 9名	
	調理師 2名	
施設・ 設備の 概要	（居室数）	（設備等）
	保育室 7	園庭 あり
	トイレ 11	
	調理室 1	
	事務室 1	

③理念・基本方針

企業理念「子どもたちの未来のために」
保育理念「豊かに『生きる力』を育てる」
保育方針
①子どもを中心に据え、家庭や地域との信頼関係を築き、環境を通して、人や物との関わりを大切にする
②子どもの安全と安心を基本として、自ら伸びる力を大切にし、成長と個性に応じた多様性のある保育をする
③子どもの目線で、豊かな愛情をもって、一人ひとりの気持ちをしっかり受け止め、その主体的な活動を育む
保育目標
①思いやりのある子ども
②自分で考える子ども
③ 元気でたくましい子ども
④ 明るくのびのびした子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

開園して3年目。子どもたちのことを常に中心として考え、子どもたちに寄り添い、応援し、楽しく過ごす事ができるように保育の実践をしています。
今、目の前にいる子どもたちは何がしたいのか？何ができるのか？どんなことに挑戦したいのか？たくさんの可能性がある子どもたち。その可能性を摘んでしまうことが無いように子どもたちのことをよく見て、考えて、個性を捉え大切にし、時には一緒に楽しんで保育をしていけるように日々、保育者は勤めています。
0～2歳児はクラスごとの活動が主となっています。その中で子ども同士の関りと保育者との信頼関係を育みます。3～5歳児は1つの部屋で活動していますが、子どもたちの過ごし方や友だちとの関わり、行事を経て、クラス単位ではなく他クラスとの活動も増やしつつ、人間関係形成にも力を入れています。時にはぶつかってしまうこともあります。保育者が仲介しながら人との関りをとても大事にしています。とにかく楽しく！を大切にしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年5月23日（契約日）～ 令和5年2月17日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	- 回（ - 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1) 異年齢保育やクラス単位での活動など様々な活動を取り入れています
子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にしています。保育時間の中でクラス単位で行う活動もありますが、3歳児から5歳児は異年齢で自由に遊べる時間を設けています。子どもたちは自分の遊びたい遊びを主体的に選択して遊んでいます。3歳児は5歳児の遊びを見て学び、5歳児は3歳児に配慮したり、お互いに良い影響を与えており、生活と遊びを豊かにする保育を展開しています。

2) おいしい給食提供のために調理職員は喫食状況を確認しています

調理室は子どもたちのクラスから離れた所に位置していますが、調理職員は、ほぼ毎日クラスに入り、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりして、食の進み具合や食べ方、表情や感想、食事の雰囲気を感じる機会を設けています。調理職員は子ども一人ひとりの発育状況なども情報共有しており、子どもの状況に合わせて野菜の切り方や味付けの工夫をし、子どもたちにとって美味しくて魅力のある食事になるよう努力を重ねています。子どもたちにとっても調理職員は身近な存在です。

3) 職員間の意識統一を図り、働きやすい職場環境を形成しています

園長は個々の職員と2ヶ月に一度面談を実施して、やりたい保育や将来の展望などを確認し合っており、意向に沿った働き方ができるように配慮しています。また、チームビルディング研修やワイガヤ研修を取り入れて、意見を活発化し、職員が互いを理解し合いながら、信頼関係を深められるよう取り組むなど、職員間の意識統一を図りながら働きやすい職場環境を形成しています。

4) 園としての自己評価を実施することが期待されます

職員個々の自己評価は、年1回、法人が作成している評価シートを用いて実施しており、自己評価結果を踏まえて各自の課題を確認し、次年度に向けた目標設定を行っています。今後はさらに、組織としての課題をより明確化するために職員個々の自己評価結果を反映させながら、園としての自己評価を年に一回以上実施することが期待さ

れます。

5)地域交流や地域貢献を具現化するための取組が期待されます
園は開設3年目でコロナ禍の影響もあり、地域のボランティアや小中学生の職場体験などの受け入れのほか、子どもと地域の交流、地域貢献の取組については、実施が難しい状況となっています。今後に向けて、コロナ禍における交流方法や地域支援の活動方法を検討するなどして地域交流、地域貢献を具現化するためのさらなる取組が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受けることで、子どもたちのために保育所として実施できていることや実施できていないことを改めて確認できる機会となりました。
保育所としてできていることに関しては、今のままを継続しつつもっと良くするために一人一人、何ができるのか考えて行動していく必要があります。また、利用者様に伝わるように魅せることも必要であり、保育の難しい可視化や情報公開の方法を考えていかねばならないということも改めて感じました。
そして、地域との連携について今年から少しずつ関わることができてきているのでこれからはもっとより深く濃ゆく関係性を築きながら、子どもたちの経験の幅を広げたり、知識として提供し、興味関心の幅を広げることができるような関わりを進めていきたいです。もちろん、保育者の経験や知識を深めることも含めて考えています。
全体的に評価内容については難しい項目もたくさんあり、回答に迷うこともありました。ありがたいのママを出しながら、保育園を知っていただくための良い機会となりました。
ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり